

2026年2月27日

各位

株式会社北洋銀行

## 有限会社ビッグレッドファーム様と 「ポジティブインパクトファイナンス」の契約を締結しました

北洋銀行(取締役頭取 津山 博恒)は、有限会社ビッグレッドファーム様(北海道新冠郡新冠町、代表取締役:岡田 紘和様)と「ポジティブインパクトファイナンス」(以下、本ファイナンス)の契約を締結しました。なお、軽種馬生産牧場に対する本ファイナンスの組成は、国内初です。

本ファイナンスは、企業活動が環境・社会・経済にもたらすインパクトを包括的に分析・評価し、ネガティブインパクトの緩和とポジティブインパクトの拡大について目標を設定し、その実現に向けた継続的な対話や支援を重視することでSDGs達成に貢献していく金融手法です。当行は、国連環境計画金融イニシアチブが提唱するポジティブインパクト金融原則に基づき、「ポジティブインパクトファイナンス評価書」を発行し、株式会社格付投資情報センター様から第三者評価として「セカンドオピニオン」を取得しています。

本件では、コア・インパクトを「強い馬・長く活躍できる馬の創出による業界発展と地域経済活性化への貢献」と特定し、今後も独自のノウハウを基に、より長い期間活躍できる競走馬の育成に「タフな競走馬をつくること」に取り組むことで、日高の基幹産業である軽種馬生産業界の発展に貢献し、持続可能な社会の実現に向けたインパクト拡大を目指している点などを評価させていただいています。

当行は、今後もほくようサステナブルファイナンス等を通じて環境・社会課題の解決を図るお客さまやプロジェクトを積極的に支援し、脱炭素社会の実現やSDGsの達成に貢献してまいります。

※「ポジティブインパクトファイナンス評価書」および「セカンドオピニオン」は別紙をご参照ください。

### 記

#### 【有限会社ビッグレッドファーム様の概要】

本社所在地	北海道新冠郡新冠町明和120番地の4
代表者	岡田 紘和 様
設立	1982年11月
業種	農業(軽種馬生産・育成等)

#### 【契約記念の様子】



右:有限会社ビッグレッドファーム  
代表取締役 岡田 紘和 様

左:北洋銀行  
静内支店長 逸見 智敏

以上

#### 《北洋銀行グループ サステナビリティ方針》

北洋銀行グループは「経営理念」と「行動規範」に基づく企業活動を通じて、当行グループを支えていただいている全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献するとともに、当行グループの中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現に努めます。

有限会社ビッグレッドファーム  
ポジティブインパクトファイナンス評価書

発行日：2026年2月27日



北洋銀行ならびに株式会社北海道共創パートナーズは、有限会社ビッグレッドファーム(以下、「ビッグレッドファーム」または「当社」)に対してポジティブインパクトファイナンス(以下、「PIF」)を実施するにあたって、当社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト(ポジティブインパクト/ネガティブインパクト)を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ(UNEP FI)が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド(モデル・フレームワーク)、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、北洋銀行が独自に開発した評価体系に基づいている。

目次

<b>1. 企業概要</b> .....	3
A. 基本情報 .....	3
B. ビッグレッドファームグループの理念体系 .....	5
C. 事業概要 .....	6
(1) 事業内容 .....	6
(2) 業界動向・外部環境 .....	9
(3) 内部環境 .....	12
(4) サステナビリティ経営に対する考え方と活動 .....	13
<b>2. インパクトの特定</b> .....	15
A. バリューチェーン分析 .....	15
B. インパクトレーダーによるマッピング .....	16
(1) 川上の事業 .....	16
(2) 当社の事業 .....	16
(3) 川下の事業 .....	16
C. インパクトニーズの確認 .....	18
(1) インパクトカテゴリとSDGsの関連性 .....	18
(2) 日本におけるインパクトニーズ .....	21
(3) 北海道におけるインパクトニーズ .....	22
D. 北洋銀行グループが認識する社会課題との整合性 .....	22
<b>3. インパクトの評価</b> .....	24
<b>4. インパクトのモニタリング</b> .....	26
<b>5. 情報開示</b> .....	26

1. 企業概要

A. 基本情報

企 業 名	有限会社ビッグレッドファーム	
所 在 地	<p>【本社】 北海道新冠郡新冠町字明和 120 番地の 4</p> <p>【牧場】                  (明和) 北海道新冠郡新冠町字明和                  (朝日) 北海道新冠郡新冠町字朝日                  (田原) 北海道日高郡新ひだか町静内田原                  (泊津) 北海道新冠郡新冠町字西泊津                  (浦和) 北海道日高郡新ひだか町静内浦和                  (真歌トレーニングパーク) 北海道日高郡新ひだか町静内真歌                  (鎌田トレーニングセンター) 茨城県銚田市安塚</p>	
代 表 者 名	代表取締役 岡田 紘和 代表取締役 岡田 美佐子	
設 立	1982 年 11 月	
資 本 金	10 百万円	
売 上 高	3,273 百万円 (2025 年 10 月期)	
従 業 員	103 名 (正社員 78 名、パートタイマー 25 名) (2025 年 10 月)	
事 業 内 容	軽種馬総合牧場 ・ 競走馬の生産、育成、調教、出走管理、繁殖	
繁 養 頭 数	約 500 頭	
グループ企業	<p>【グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 株式会社サラブレッドクラブフィアン (競走馬所有、出走管理等：クラブ法人)</li> <li>● 有限会社ラフィアンターフマンクラブ (競走馬所有、出走管理等：愛馬会法人)</li> <li>● 有限会社コスモス (共有馬の販売、運営)</li> <li>● 株式会社ブルースターズファーム (競走馬生産、育成：牧場)</li> </ul>	
沿 革	1974 年 1976 年 1982 年 1986 年 1987 年 1988 年 1996 年 1999 年 2006 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岡田繁幸氏が日高郡新ひだか町浦和にて牧場を創業</li> <li>・ 牧場名をビッグレッドファームに改名</li> <li>・ 有限会社ビッグレッドファームを設立</li> <li>・ 育成馬グランバズドリームが東京優駿 (G1) で 2 着</li> <li>・ マイネルダビテが育成馬として初の重賞制覇 (共同通信杯 G3)</li> <li>・ 日高郡新ひだか町真歌に真歌トレーニングパーク開場、坂路コースを設置 (後に 1500m に延長し完成)</li> <li>・ マイネルマックスが育成馬として初の G1 制覇 (朝日杯 3 歳ステークス)</li> <li>・ 新冠郡新冠町明和にビッグレッドファーム明和開場</li> <li>・ 育成馬コスモバルクがシンガポール航空インターナショナルカップ (G1) を制覇 NAR 所属馬初の海外 G1 制覇</li> </ul>

2007年	・茨城県銚田市に銚田トレーニングセンター開場
2009年	・マイネルキッツが天皇賞（春）を優勝し生産馬として初のG1制覇
2011年	・生産馬マイネルネオスが中山グランドジャンプ（J・G1）を優勝 ・新ひだか町田原にビッグレッドファーム田原開場
2018年	・新冠町朝日にビッグレッドファーム朝日開場
2021年	・ユーバーレーベンがオークスを優勝、生産馬として初の3歳クラシック優勝 ・新冠町西泊津にビッグレッドファーム泊津開場
2023年	・生産馬マイネルグロンが中山大障害（J・G1）を優勝 ・マイネルグロンがJRA賞2023年最優秀障害馬を受賞
2024年	・創業50周年

B. ビッグレッドファームグループの理念体系

ビッグレッドファームグループは、以下のミッション・ビジョンを掲げている。

ミッション
<p>タフな競走馬をつくり、競馬で結果を出す</p> <p>-----</p> <p>To produce tough racehorses and success on the racecourses</p>

ビジョン (2030年)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本ダービー制覇</li> <li>● 海外の G1 レース勝ち馬を 3 頭以上つくる</li> <li>● 優良繁殖馬の導入・生産</li> <li>● 省力化（設計、機械、手順）・IT 化</li> </ul>

バリュー
<p>競馬とは 300 年以上も続いている世界的なエンターテインメントの 1 つであり、日本でも健全なスポーツとしてもっと認められるべきである。</p> <p>当社はその競馬に欠かせない競走馬に関わる事業を営み、生産・育成を中心に競走馬を通じて関係する方々に夢と感動を与えることを目指す。</p> <p>当社はタフな競走馬をつくるために、自然や人の技術・経験を尊重し、原価を意識しながら創造的な仕事をする。</p> <p>当社は従業員の勤勉さや柔軟性、忍耐力を評価する。また、従業員の構成は少数を原則とし、一切の階層を実力本位・人格主義の上に置き、個人の能力を最大限に引き出すこと（自立）とチームワークで大きな効果を出すこと（共存）を目指す。</p> <p>当社は不当な儲け主義を廃し、いたずらに規模の拡大を追わず、実質的な活動に重点を置き、品格を高め、真に自立した経営体を維持する。そのために出した利益を、次の 3 つのバランス（3 等分ではない）に配慮する。</p> <p>賃金・福利厚生・研修：従業員のため                  投資用資金：将来の強みを作るため                  法人税等の税金や社会貢献活動など：国・地域社会のため</p>

C. 事業概要

(1) 事業内容

ビッグレッドファームは、北海道日高地区（新冠町と新ひだか町）に6か所、茨城県に1か所の計7か所で牧場を構え、スタリオン（種牡馬）業務をはじめ、繁殖、育成、調教（トレーニング）の競走馬に係る全ての業務を担っている総合牧場である。

「タフな競走馬をつくり、競馬で結果を出す」というミッションに沿い、一貫した独自のノウハウの基に早期からレースにデビューし、より長い期間活躍できる競走馬の育成に取り組んでいる。

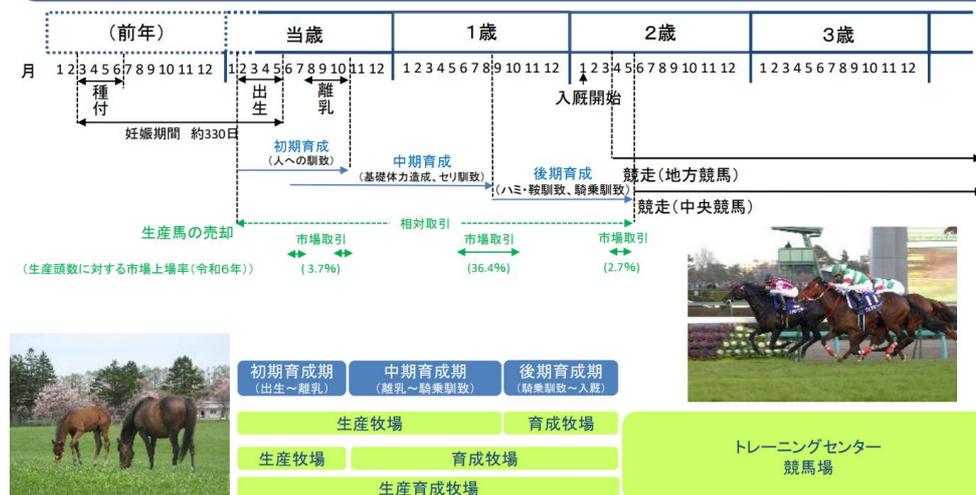
生産、育成部門では広大な敷地を利用して夜間放牧を行ない、より多くの運動量を確保することで基礎体力の強化を実現している。

調教部門ではメインコースである屋根付き坂路コースを4つの牧場（新冠町明和、新冠町泊津、新ひだか町真歌、茨城県銚田市）に設け年間を通じ天候などの影響を最小限にトレーニングできる環境を整えている。

茨城県に構える銚田トレーニングセンターは JRA 美浦トレーニングセンター近郊という条件を生かして現役馬の短期休養に利用し、すぐにレースに出走できる態勢を整えている。また、運営する牧場内は自然の地形や木々を活かし、緑地帯を多く設け快適で気持ちの良い空間づくりを第一としている。

■ 軽種馬の生産・育成ステージ

- 軽種馬は、主に2月～5月に生産牧場で出生し、生産牧場や育成牧場等での約2年間の育成期間を経て、中央、地方競馬のトレーニングセンター、競馬場に入厩し、レースに出走。
- 軽種馬は、各ステージ(当歳、1歳、2歳)において、セリ市場又は相対(庭先)で取引。



【出典：農林水産省『馬産地をめぐる情勢』】

■ 各施設の概要

牧場名	特徴	面積 (ha)	設備
明和	広大な敷地を活用し、種付、繁殖、育成、調教と全ての業務を行う	315	・オフィス ・KEIBA CLUB （クラブハウス） ・スタリオン厩舎 ・屋根付き坂路コース（1100 m） ・トレッドミル2基 ・ウォーキングマシン9基 ・トラックコース（1200 m） ・厩舎（310 頭収容）
朝日	主に繁殖牝馬の管理を行う	57	・厩舎（70 頭収容）
田原	主に離乳後から1歳馬の管理を行う	20	・厩舎（35 頭収容）
泊津	繁殖牝馬から育成馬、および休養馬の調整までを行う	85	・屋根付き坂路コース(800 m) ・トレッドミル1基 ・ウォーキングマシン5基 ・トラックコース（600 m） ・厩舎（145 頭収容）
真歌	全長 1500mの屋根付き坂路でレースに向けてより実践に近いトレーニング・調整を行う	35	・屋根付き坂路コース（1500 m） ・トレッドミル1基 ・ウォーキングマシン5基 ・トラックコース（400 m） ・厩舎（96 頭収容） ・会員用ゲストハウス
浦和	静かな環境で繁殖牝馬や現役休養馬の繋養を行う	30	・ウォーキングマシン1基 ・厩舎（45 頭収容）
銚田	JRA 美浦トレーニングセンター近郊にあり主に現役馬の調整を担うトレッドミルなどを使用しトレセン入厩後の出走に向けスムーズな調整を行う	10	・屋根付き坂路コース(640 m) ・トレッドミル2基 ・ウォーキングマシン5基 ・厩舎（81 頭収容）
ブルースターズファーム (関連会社)	繁殖牝馬、中期育成の1歳馬、現役馬の休養やリフレッシュのための施設、放牧地	83	・厩舎（60 頭収容） ・ウォーキングマシン1基



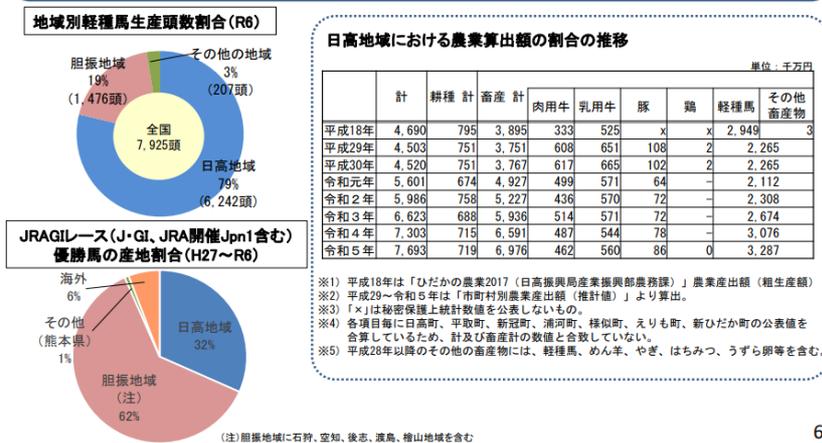
【出典：ビッグレッドファーム提供資料】

(2) 外部環境<sup>1</sup>

① 競馬業界の構造と軽種馬生産の現状

日本の競馬業界は、軽種馬の生産から調教・販売、出走管理、種付けまでを包含する多層的な産業構造を持ち、経済的および文化的に日本社会に深く根差した重要な役割を担っている。特に軽種馬産業の中心地である北海道日高地区では、全国の生産農家の約84%、繁殖雌馬の約78%、生産頭数の約79%を占めるなど、同産業は地域経済の中核として機能している。一方、生産頭数は日高地域が胆振地域より多いものの、GIレース(JRA)における過去10年の優勝馬は胆振地域の方が多く、日高地域においては強い馬づくりが大きな課題とされている。

- 日高・胆振地域(注)の軽種馬生産頭数は全国の約97%(うち日高約79%、胆振約19%)。特に日高地域では農業産出額に占める軽種馬の割合が最も高く、地域の主要な産業。
- 生産頭数は日高地域が胆振地域より多いものの、GIレース(JRA)における過去10年の優勝馬は胆振地域の方が多く、日高地域においては強い馬づくりが大きな課題。



【出典：農林水産省『馬産地をめぐる情勢』、JRA 公式ホームページ】

経済的側面では、日本中央競馬会(JRA)の売上高は年間約3兆2,755億円、地方競馬の売上高は1兆735億円に達し、これらの収益は賞金配分や畜産業振興、地域経済活性化の資金源となっている。この資金は馬主や調教師、騎手へ分配されるほか、牧場や生産者への助成、育成技術の研究開発、災害時の被災地支援、地域の観光振興にも投入され、地域の雇用創出や経済波及効果の原動力となっている。

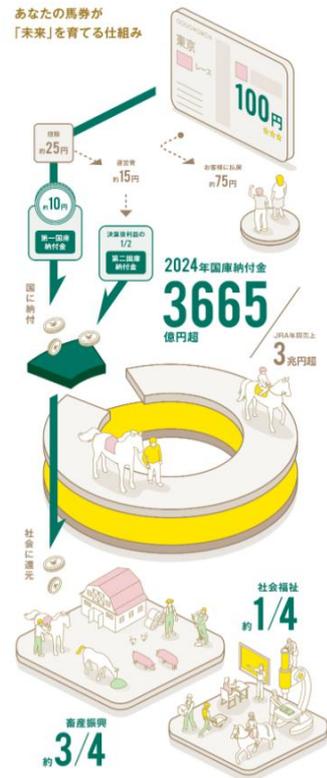
文化的には、競馬は江戸時代から続く伝統的なスポーツであり、地域文化の形成や地域住民・観光客の交流促進に寄与している。

(出展)

農林水産省『馬産地をめぐる情勢』令和7年7月

軽種馬生産構造改革推進会議国際的に通用する強い馬づくりと日高の軽種馬生産のめざす姿 令和6年7月

JRA 公式ホームページ



【出典：農林水産省『馬産地をめぐる情勢』、JRA 公式ホームページ】

一方で、軽種馬産業は深刻な社会的課題にも直面している。高齢化と後継者不足により、全国の馬生産農家は減少傾向にあり、これが集落の縮小や地域経済活動の低下につながる懸念がある。特に後継者不足は、地域内での技術・文化の継承を阻害し、生産農家の減少による競走馬の流通量や価格形成の不安定化を招く恐れがある。家族経営による個別完結型(零細経営、小規模経営)において労働力の限界が指摘されている。中規模経営や大規模経営は、離農農家の採草地・放牧地の取得や地域における軽種馬頭数の維持など、更なる規模拡大により地域及び軽種馬生産基盤を下支えする役割が期待されると同時に、牧場における労働力不足をいかに解消するかが、今後の大きな課題の一つとなっている。このような中、農協によるコントラクター事業や研修会を実施や、地域内で労働力確保と担い手育成を図る動きが広がっている。

■飼養規模別の戸数、頭数の過去10年間の比較

区分	10年前(H26)			現在(R5)			H26-R5	
	戸数	飼養頭数	頭数/戸	戸数	飼養頭数	頭数/戸	戸数	飼養頭数
大規模経営(16頭以上)	111	3,161	28.5	166	5,023	30.3	55	1,862
中規模経営(11~15頭以下)	119	1,506	12.7	110	1,398	12.7	-9	-108
小規模経営(6~10頭以下)	217	1,674	7.7	170	1,354	8.0	-47	-320
零細経営(1~5頭以下)	315	934	3.0	196	589	3.0	-119	-345
計	762	7,275	9.5	642	8,364	13.0	-120	1,089

資料：軽種馬統計

■離農農家(39戸)の状況について

年代	戸数	離農の理由					負債				後継者(戸)		
		後継者問題	経営不振	労働力不足	その他	なし	~3千万円	~5千万円	~1億円	1億円以上	有	無	
30代	0												
40代	3	2			1	3							3
50代	5	1	3	1		2	2		1				3
60代	8	4	3		1	5	1		2				5
70代以上	18	8	6		4	11	1	3			3		14
法人・未回答	5	5				5							5
平均：67歳	39	20	12	1	6	26	4	3	3	3	0	22	17

平均：25,678万円

資料：日高振興局「軽種馬経営動態調査(R5)」

【出典：軽種馬生産構造改革推進会議『国際的に通用する強い馬づくりと日高の軽種馬生産のめざす姿』】

また、競馬ファンの拡大も業界にとって喫緊の課題であり、その取り組みは多面的に進められている。近年、オンラインでの馬券購入や映像配信サービスの活用が急速に拡大したことにより競馬の楽しみ方が多様化し、時間や場所を問わずに競馬にアクセスできる環境が整いつつある。しかし一方で、伝統的な競馬場への来場者数減少や固定ファンの減少も課題となっており、リアルな体験やコミュニティづくりの強化が求められている。

この点で、北海道日高地区をはじめとする地域が連携したプロモーション活動は重要な役割を果たしている。例えば、地域資源を活用した観光振興が進められ、牧場見学ツアーや乗馬体験、競走馬に関するイベントなどを通じて、地域を訪れる観光客に競馬文化の魅力を伝える取り組みが活発である。これにより地域経済の活性化とともに、競馬の魅力に触れる機会が拡大し、ファンの裾野拡大につながっている。

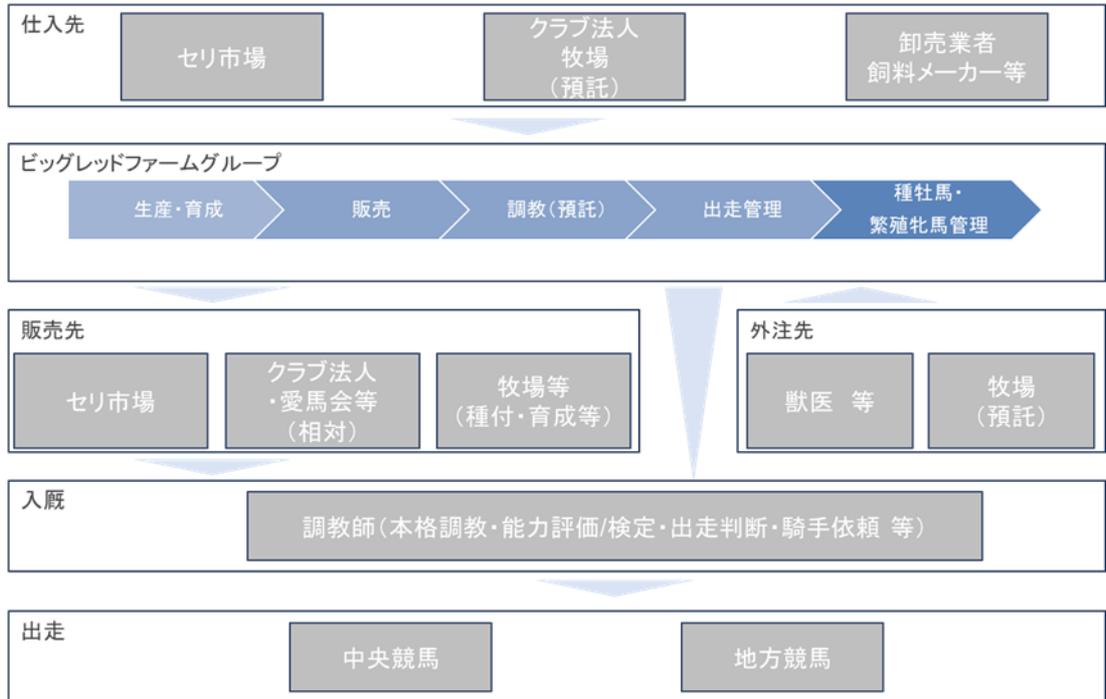
また、近年ではゲーム・アニメコンテンツも競馬ファン拡大に大きな影響を与えている。競走馬を擬人化したキャラクターが活躍するメディアミックス作品が、既存ファンだけでなく、これまで競馬に触れてこなかった層へのリーチを拡大し、実際のレースや馬に興味を持つ新たなファン層の増加につながった例がある。これはさらに、観光分野にも波及しており、北海道日高地区など競馬ゆかりの地域では「聖地巡礼」と呼ばれる観光客の訪問増加が見られる。地元ではイベントやコラボ企画を実施し、ファンが地域を訪れるモチベーションを高めるとともに、地域経済に貢献している。こうしたコンテンツを活用したファン拡大と地域振興の連携は、今後さらに発展が期待される分野である。

このように、競馬ファンの拡大に向けた取り組みは、デジタル技術の利活用のみならず、地域との連携強化や新たな文化コンテンツの活用を通じ多角的に進められており、これが業界全体の活性化につながる重要な柱となっている。

日本競馬産業の持続的な発展には、「強い馬づくり」と合わせて、質の高い競走馬を生み出す競馬の魅力向上とファン層拡大が期待される。

(3) 内部環境

① ビジネス俯瞰図



② バリューチェーン



【出典：ビッグレッドファームへのヒアリングをもとにHKP作成】

(4) サステナビリティに対する考え方と活動

① サステナビリティに対する考え方

ビッグレッドファームは、軽種馬産業を通じて、300年以上続く世界的なエンターテインメントである競馬の健全な発展と、関係する方々に夢と感動を与えることを目指している。このために、従業員の働きがい向上や、環境に配慮した事業活動を推進し、持続可能な経営の実現に向け取り組みを進める意向である。

② サステナビリティ活動

1. 環境

(ア)CO2 排出量の削減

日本における GHG 排出量 11.35 億 t (2022 年度) のうち、農林水産分野は 0.48 億トン (4.2%) 程度、内訳としては燃料の燃焼で約 1.2%、家畜由来で約 1.3%程度である。

当社では、自然を尊重した事業活動に努めるとしており、銚田トレーニングセンターの施設屋上に太陽光パネルを設置し FIT 制度での売電を通じて環境貢献に取り組むほか、2025 年度より CO2 排出量 (スコープ 1・2) の算定に取り組みを開始している。今後は、事業活動の各工程での省力化推進を通じてエネルギー使用量を削減し、CO2 排出の抑制を強化する方針である。

(イ)排せつ物の適切な管理

家畜排せつ物は、野積みや素堀りといった不適切な管理によって、悪臭の発生要因となることや、河川や地下水へ流出して水質汚染を招くなど、環境問題の発生源としての側面を有する一方で、堆肥化など適切な処理を施すことによって、土壌改良資材や肥料としての有効活用が期待されるなど、農村地域における貴重な資源としての側面も有するものとされ、「家畜排せつ物法」が施行されている。

当社では同法令の遵守はもちろんのこと、厩舎で使用する敷料を堆肥化し自社牧場の肥料として再活用する取り組みを行い、家畜排せつ物の利用促進に取り組んでいる。

2. 社会

(ア)アニマルウェルフェア

公益社団法人日本馬事業界によると「アニマルウェルフェアの対応において最も風刺されるべきは施設の構造や設備の状況でなく、日々の家畜の観察や記録、家畜の丁寧な取り扱い、良質な飼料や水の給与等の適切な飼養管理により、家畜が健康であることであり、そのことを関係者が十分認識して、その推進を図っていく必要がある」とされている。

当社では、業界団体の指針や欧州の各種文献を基にした具体的な事例と共に、日々の業務における馬との向き合い方を従業員に伝え、教育を実施している。

また、業界として課題となっている、引退競走馬の利活用促進や養老・余生の機会拡充にも積極的に取り組んでいく意向にある。

(ア)働きがいの向上

当社は、少数精鋭・実力本位・人格主義を土台として、個人の能力を最大限に引き出すこと（自立）とチームワークで大きな成果を出すこと（共存）を目指している。各牧場を統括する場長の下に、調教・スタリオン・繁殖・育成・農事と職種ごとに主任を配置する体制をとり、個人の特性を鑑みた適材適所の人材育成を行うことで従業員の働きがいを高めている。また、待遇面では役職のつかない従業員においても業界トップクラスの賃金水準を目指し積極的な賃上げにも取り組んでいる。

(イ)働きやすさの向上・ワークライフバランス

職場環境整備においては、牧場整備におけるロボットトラクターの導入・機械化の推進・自社に適した牧場整地(内製化)による管理の効率化、分娩管理における AI システム活用、バックオフィス業務における IT 化の推進に取り組み、積極的に業務の省力化を進めている。この結果、非管理職における有給消化率は 100%を達成している。

今後も、業務の標準化・更なる機械化・IT 化の推進を積極的に進めていく方針である。

3. 経済

(ア)地域内連携・地域貢献活動

当社は、経営方針（バリュー）において「競馬とは 300 年以上も続いている世界的なエンターテインメントの 1 つであり、日本でも健全なスポーツとしてもっと認められるべきである。当社はその競馬に欠かせない競走馬に関わる事業を営み、生産・育成を中心に競走馬を通じて関係する方々に夢と感動を与えることを目指す。」と謳っている。業界を馬産地から盛り上げるべきとの熱意を持ち、事業活動を通じて、競馬ファンの増加による業界振興、軽種馬産業が地域経済の中核である日高地域の経済活性化にも貢献していくことを目指している。具体的には、「開かれ、魅せる牧場」を意識した事業運営と一般見学の受け入れ、旅行会社と連携した観光ツアー、事業拠点である新ひだか町の馬の文化祭への協力を積極的に取り組んでいる。

2. インパクトの特定

A. バリューチェーン分析

ビッグレッドファームのインパクトを特定するためにバリューチェーン分析を行った。具体的には、バリューチェーン(主活動及び支援活動)に含まれる当社のサステナビリティ活動について、影響を与える側面(環境・社会・経済)毎に分類した。

■バリューチェーンにおける環境・社会・経済との関連性

バリューチェーン		環境、社会、経済に影響を与えるサステナビリティ活動
主活動	生産・育成	<b>【環境】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 糞尿の堆肥化・再利用の推進</li> <li>● 放牧地や家畜排せつ物の適切な管理による悪臭・水質汚染防止</li> </ul> <b>【社会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 繁殖牝馬・仔馬の高度な健康管理ノウハウ</li> <li>● 分娩管理におけるIT化推進による、事故の抑制、生産性向上</li> </ul>
	販売	<b>【社会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 過度な早期販売等の回避</li> </ul> <b>【経済】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元セリ市場への出品による経済活性化</li> </ul>
	調教 預託	<b>【環境】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 糞尿の堆肥化・再利用の推進</li> <li>● 放牧地や家畜排せつ物の適切な管理による悪臭・水質汚染防止</li> </ul> <b>【社会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 馬体特性・成長に合わせた適切な調教</li> <li>● 一貫体制を強みとした高度なケア技術(故障予防・治療)</li> <li>● 獣医師や調教師との連携強化</li> </ul> <b>【経済】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一貫体制を強みとする独自の調教ノウハウによる、強い馬・長く活躍できる馬の創出</li> </ul>
	出走管理	<b>【社会・経済】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一貫体制を強みとした、独自ノウハウに基づく適切な出走管理</li> </ul>
	種牡馬・繁殖牝馬の管理	<b>【社会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 個体差に応じた適切な繁殖間隔の管理</li> </ul>
支援活動	<b>【環境】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 省力化、IT化の推進</li> <li>● CO2排出量の管理と削減への取り組み</li> </ul> <b>【社会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機械化・IT化の推進による生産性向上</li> <li>● 適材適所の人材育成</li> <li>● 地域連携の強化</li> </ul>	

【出典：ビッグレッドファームへのヒアリングをもとにHKP作成】

## B. インパクトレーダーによるマッピング

バリューチェーン分析の結果を踏まえ、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを活用したインパクトのマッピングを実施した。

- まず、国際標準産業分類に従って、ビッグレッドファームの川上の事業を「農産品原料及び生き物卸売業（業種コード 4620）」、当社の事業を「馬その他のウマ科の動物の飼育（業種コード 0142）」、「動物生産支援活動（業種コード 0162）」、「その他の機械器具・有形財賃貸・リース業（業種コード 7730）」、「その他のスポーツサービス業（業種コード 9319）」、当社の川下の事業を「スポーツ施設運営業（業種コード 9311）」、「ギャンブル及び賭け事事業（業種コード 9200）」と分類した。
- さらに、インパクトレーダーが示したポジティブインパクト（PI）及びネガティブインパクト（NI）に対し、当社のバリューチェーン分析の結果を照合して整理した。

### (1) 川上の事業

- 農産品原料及び生き物卸売業（業種コード 4620）  
川上の事業におけるインパクトは、当社の事業活動が PI の増大または NI の低減に与える影響が僅少であるため特定していない。

### (2) 当社の事業

- 馬その他のウマ科の動物の飼育（業種コード 0142）
- 動物生産支援活動（業種コード 0162）
- その他の機械器具・有形財賃貸・リース業（業種コード 7730）
- その他のスポーツサービス業（業種コード 9319）
  - ① 放牧地や家畜排せつ物の適切な管理による悪臭・水質汚染防止に取り組むことで「水域」「大気」「土壌」「廃棄物」の NI 低減が期待される。
  - ② CO2 排出量の管理・削減の取り組みにより「気候の安定性」の NI 低減が期待される。
  - ③ 適切な調教・販売管理・繁殖間隔の管理、獣医師との連携を含む馬体の健康管理やホルモン剤使用時における適切な利用の徹底に取り組んでおり「健康および安全性」の NI 低減が期待される。
  - ④ アニマルウェルフェアに配慮した事業活動や従業員教育、スポーツエンターテインメントとしてのウェルビーイング提供により「健康および安全性」の PI 増大が期待される。
  - ⑤ 人材育成や待遇改善の取り組み、業務効率化や有給休暇の積極取得推進により「雇用」「賃金」の PI 増大および「賃金」「社会的保護」の NI 低減が期待される。
  - ⑥ 強い馬・長く活躍できる馬づくり、および地域との連携強化により、業界振興・地域観光振興につながることから、インパクトマップでは抽出されていないが「零細・中小企業の繁栄」の PI 増大を特定した。

### (3) 川下の事業

- スポーツ施設運営業（業種コード 9311）
- ギャンブル及び賭け事事業（業種コード 9200）
  - ① 軽種馬の安定的な供給や強い馬の生産・供給により公営事業・スポーツエンターテインメントとしての競馬の振興、ひいては国庫寄付金の増大を通じたインフラ整備・畜産振興と軽種馬生産地の活性化につながることから「健康および安全性」の PI 増大と、インパクトマップでは抽出されていないが「零細・中小企業の繁栄」の PI 増大を特定した。

なお、当社および川下の事業においてインパクトレーダーが示したその他のインパクトトピックに関する PI または NI は、当社の事業との関連が限定的であるため、マッピングから除外した。

<当社の事業が与えるインパクトのマッピング(UNEP FI インパクトレーダー)>

下図の通りマッピング内容を可視化した。各インパクトトピックに係る PI または NI のうち、当社のバリューチェーン分析により関連付けられるものを黄色でハイライトした。

【インパクトマップ】

バリューチェーン			川上の事業		当社の事業		当社の事業		当社の事業		当社の事業		川下の事業		川下の事業		
業種 (国際標準産業分類)			農産品原料及び 生き物卸売業		馬その他のウマ 科の動物の飼育		動物生産支援活 動		その他の機械器 具・有形財資		その他のスポー ツサービス業		スポーツ施設運 営業		ギャンブル及び 賭け事事業		
【コード】			4620		142		162		7730		9319		9311		9200		
三側面	インパクトエリア	インパクトトピック	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	
社会	人格と人の 安全保障	紛争															
		現代奴隷				●●		●●									
		児童労働				●●		●●									
		データプライバシー															
	健康および安全性	自然災害				●●		●●									
		-		●	●	●●	●●	●●	●●	●	●	●	●●	●			●
	資源とサービスの 入手可能性、 アクセス可能性、 手頃さ、品質	水					●●		●●					●●	●		●
		食糧	●	●				●●									
		エネルギー						●●									
		住居															
		健康と衛生															
		教育															
		移動手段															
		情報															
		コネクティビティ															
		文化と伝統															
	ファイナンス																
	生計	雇用		●		●●		●●		●●		●●		●●	●		●
		賃金		●		●	●●	●	●●	●	●●	●	●●	●	●	●	●
		社会的保護			●		●●		●●		●●		●●		●		●
ジェンダー平等						●●		●●		●●		●●					
民族・人種平等						●●		●●		●●		●●					
平等と正義	年齢差別																
	その他の社会的弱者					●●		●●		●●		●●					
	強固な制度、 平和、安定	法の支配															
	市民的自由																
社会経済	健全な経済	セクターの多様性															
	帯細・中小企業の繁栄	●															
	インフラ								●								
自然環境	気候の安定性			●		●●		●●									
	生物多様性と 生態系	水域		●		●●		●●		●●		●●					
		大気		●		●●		●●		●●		●●					
		土壌				●●		●●		●●		●●					
		生物種		●●		●●		●●		●●		●●					
		生息地		●		●●		●●		●●		●●					
	サーキュラリティ	資源強度				●●		●●		●●		●●					
		廃棄物		●		●●		●●		●●		●●		●		●	

●●: 主要なカテゴリ、●: 関連のあるカテゴリ  
黄色: PIの増大またはNIの緩和に係る箇所

C. インパクトニーズの確認

(1) インパクトカテゴリとSDGsの関連性

下図によりインパクトカテゴリとSDGsの関連性を以下の通り可視化した。バリューチェーン分析(サプライチェーン及び管理部門)とインパクトレーダーによるマッピングを通じ、取組内容を網羅的に整理している。

■ サプライチェーンにおけるマッピング



<ビッグレッドファームのインパクト>

ロジックモデルをもとに、ビッグレッドファームのインパクトを特定した。ここで、インパクトとは環境社会・経済に与える変化またはアウトカムそのものと定義した。

また、当社の事業別売上構成比及びビジネスモデル及び上記のマッピング結果等をもとに特に重要なインパクトをコア・インパクトとして特定した。

<ロジックモデルによる整理>



■ インプット

- ① 財務資本
  - 安定したキャッシュフロー創出による経営資源への分配
- ② 製造資本
  - 広大な牧場、豊富な飼育頭数、多種多様なトレーニング施設/設備
- ③ 知的資本
  - 総合牧場による一貫体制及び 50 年超の業歴で培ったノウハウ
- ④ 人的資本
  - 少数精鋭のプロフェッショナル人材
- ⑤ 社会/関係資本
  - 馬主、取引先、協力業者、関連団体、地域との良好な関係性
  - 業歴と共に積み重ねたブランド価値
- ⑥ 自然資本
  - 馬産地に適した気候・土地等の自然資本

<インパクトの整理>

- 強い馬・長く活躍できる馬の創出による業界発展と地域経済活性化への貢献：コア・インパクト  
 日高振興局・管内各町・農協等・生産者等でなされる軽種馬生産構造改革推進会議においては「日高の基幹産業である軽種馬生産が、中央競馬・地方競馬を支えながら持続的発展を図るためには、世界に通用する『強い馬づくり』を推進するとともに、軽種馬の生産構造改革を着実に進めていく必要がある」とされている。ビッグレッドファームは、経営方針（バリュー）に「競走馬を通じて関係する方々に夢と感動を与えることを目指すこと」および「タフな競走馬をつくること」を掲げ、一貫した独自のノウハウの基に早期からレースにデビューし、より長い期間活躍できる競走馬の育成に取り組んでおり、これは地域・業界の目指す姿と一致する。  
 また、当社は「開かれ、魅せる牧場」運営の実践として、名馬を含む競走馬の一般見学受け入れ、旅行会社と連携した観光ツアー、事業拠点である新ひだか町の馬の文化祭への協力を積極的に取り組んでいる。強い馬・長く活躍できる馬を創出することが、競馬ファンの拡大、業界発展と地域の雇用創出および経済活性化へと波及する好循環を生むことから、コア・インパクトとして特定した。
  
- 安定した雇用の創出  
 農林水産省『馬産地をめぐる情勢』によると、2023年度の日高地区における農業産出額769.3億円の内、軽種馬産業は328.7億円（42.7%）を占める重要産業である一方、高齢化や後継者不足による生産農家の減少が課題として指摘されている。ビッグレッドファームにおける、働きがいと働きやすさの向上の両面で取り組みにより、安定した雇道を創出することは業界・地域の発展に資するものであり、当社のインパクトとして特定した。
  
- 気候変動緩和への貢献  
 当社は経営方針（バリュー）にて「タフな競走馬をつくるために、自然や人の技術・経験を尊重」する姿勢を示している。自然資本を用い、動物を相手とした事業を営むにあたり、事業活動における環境負荷の低減をより一層強化する方針にあり、当社のインパクトとして特定した。

(2) 日本におけるインパクトニーズ

下図は SDGs に含まれる 17 の各目標について、日本における達成度を示した「SDGs インデックス&ダッシュボード 2025」である。各目標の達成度はそれぞれの色で示されており、具体的には緑は「目標達成」、黄は「課題が残っている」、橙は「重要な課題が残っている」、赤は「主要な課題が残っている」と定義づけられている。

ビッグレッドファームのインパクトに関連する SDGs の目標は「3,8,11,13」であるところ、「3」を除く目標が未だ日本では達成されておらず、とりわけ「13」は主要な課題が残っている、「11」は重要な課題が残っている、「8」は課題が残っているものである。したがって、特定した当社のインパクトはいずれも有意義である。



【出典：Sustainable Development Solutions Network (SDSN) より】

(3) 北海道におけるインパクトニーズ

ビッグレッドファームの主要な事業エリアである北海道は「北海道 SDGs 未来都市計画 (2025~2027)」を策定し、「2030 年のあるべき姿」への実現に向け「北海道の優先課題」を掲げている。また、同計画では各優先課題について関連する SDGs を定義し、各目標を達成するための取組内容について KPI (Key Performance Indicator, 重要業績評価指標) を設定している。

特定した当社のインパクトとそれに関連する SDGs は、北海道が示すビジョンや計画と全体的に整合している。とりわけ、道は「持続可能で個性あふれる地域づくり」に向けて「持続可能な地域交通や効率的な物流の確保」が重要であるとしたうえで、具体的な取り組みとして「輸送の共同化・効率化の促進、本道物流の維持に向けた運輸人材不足への対応の推進」が必要であるとしており、当社のインパクト内容と整合する。したがって、当社のインパクトは北海道のニーズとも合致している。

【2030 年のあるべき姿】

「世界の中で輝きつづける北海道」

～ 世界に誇れる北海道の魅力を磨き、育て、様々な強みを活かし、SDGs の推進に積極的に取り組むことによって、「世界の中の北海道」としての存在感を高めながら、誰一人取り残さない、将来にわたって安心して心豊かに住み続けることができる地域社会を形成していく ～

<北海道の優先課題>

「2030 年のあるべき姿」の実現に向け、企業や団体、自治体など様々な主体が本道の課題や強みなどの実情に即して、特に優先的に取り組むべき課題を共有することが必要であるため、本計画においては、SDGs のゴール、ターゲットや国の SDGs 実施指針などを踏まえ、道として以下の「優先課題」を提示する。

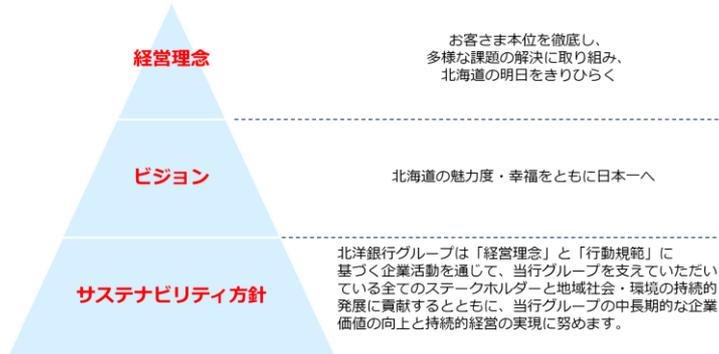
- (経済) 北海道の価値と強みを活かした持続可能な経済成長
- (社会) あらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会の形成  
未来を担う人づくり  
持続可能で個性あふれる地域づくり
- (環境) 環境・エネルギー先進地「北海道」の実現

【出典：北海道「北海道 SDGs 未来都市計画(2025~2027)」】

D. 北洋銀行グループが認識する社会課題との整合性

北洋銀行グループは、「お客さま本位を徹底し、多様な課題の解決に取り組み、北海道の明日をきりひらく」という経営理念と行動規範に基づく企業活動を通じて、全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献するとともに、当行グループの中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現に努めることをサステナビリティ方針として掲げている。

ビッグレッドファームのインパクトは、北洋銀行のサステナビリティ方針と全体的に整合的である。とりわけ、ESG 取組方針の「1. 環境方針」、「2. 社会貢献方針」、SDGs に係る重点テーマの「1. お客様との共通価値の創造」、「2. 環境保全」及び環境・社会に配慮した投融資方針の「1. 環境・社会にポジティブな影響を与えると考えられる事業に対する取組方針」に整合している。したがって、当社のインパクトは当行グループが認識する社会課題と整合している。



**環境・社会に配慮した投融資方針**

- 環境・社会にポジティブな影響を与えると考えられる事業に対する取組方針**  
以下に例示する事業等に対しては、北海道経済の成長・発展に結びつくよう積極的に投融資してまいります。  
  - ・環境保全や気候変動対応など環境課題の解決に資する事業
  - ・地域経済の持続的発展に資する事業（起業・創業・イノベーション創出・事業承継等）
  - ・医療・福祉・教育・ダイバーシティの充実
- 環境・社会にネガティブな影響を与えると考えられる事業等に対する取組方針**  
以下に例示するような環境・社会に負の影響がある特定の事業等への投融資については慎重に判断します。ただし、脱炭素社会実現に向けた移行期間（トランジション期間）の対応等については、積極的に投融資してまいります。  
  - ・石炭火力発電・石炭探掘事業
  - ・森林伐採事業・パーム油農園開発事業
  - ・非人道兵器製造
  - ・人権侵害・強制労働等

**北洋銀行グループ人権方針**

- 北洋銀行グループ人権方針は、「サステナビリティ方針」を踏まえ、企業活動を通じて人権の尊重に取組んでいくことをお約束するものです。
- ※以下の項目を設定
- 1.国際規範の尊重
  - 2.適用範囲
  - 3.人権尊重に対するコミットメント
  - 4.救済措置
  - 5.啓発活動・教育
  - 6.管理体制

**サステナビリティ方針**

**ESG取組方針**

1. 環境方針
2. 社会貢献方針
3. ガバナンス方針

**SDGsに係る重点取組テーマ**

1. お客さまとの共通価値の創造
2. 環境保全
3. 医療福祉
4. 教育文化
5. ダイバーシティ

【出典：北洋銀行提供資料】

### 3. インパクトの評価

特定した各インパクトに対し、インパクトの種類(PI の増大、NI の低減)及びインパクトトピック、関連する SDGs、取り組み内容、目標・KPI を整理した。

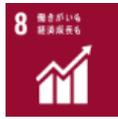
#### 強い馬・長く活躍できる馬の創出による業界発展と地域経済活性化への貢献 : コア・インパクト

インパクトの種類	経済面・社会面において PI を増大 社会面において NI を低減
インパクトトピック	PI : 「健康および安全性」 「零細・中小企業の繁栄」 NI : 「健康および安全性」
関連する SDGs	 
取組内容	① 一貫体制と独自の調教ノウハウによる、強い馬・長く活躍できる馬の創出および日高の基幹産業である畜産業の発展 ② 馬体特性・成長に合わせた適切な調教、獣医師や調教師との連携強化による適切な治療手段・頻度の選択/馬の健康管理の徹底
目標と KPI	① 2030年までに自社グループにおける2歳馬のデビュー率(2026年~2028年産駒の3年平均)を88%にする ※実績 ・2021年~2023年産駒平均:83% ② 2030年度までに自社グループにおける1頭当たりの年間医療費(直近3年平均)を33,000円とする ※実績 ・2022年度 31,024円/頭 ・2023年度 32,468円/頭 ・2024年度 33,187円/頭 ※計算式 (手術等の高額医療費を除く各年度医療費/各年度末管理頭数) / 3年

競走馬は、生産・育成牧場での調教工程を経た後、日本中央競馬会や地方競馬全国協会に所属する調教師へ預けられ(入厩)、調教師のもとで能力検定・ゲート発送検査をクリアした上で調教師の判断でデビューが決定する。これらの試験合格は競走馬としての正式デビューの前提条件であるが、入厩前の初期育成・調教の度合いが2歳馬としてのデビュー率を左右する。KPI ①の実現には、競走馬デビューに向けた各種試験の準備を含む一貫した育成環境の整備、馬の潜在能力を最大限に引き出す独自の調教ノウハウの蓄積と実践による基礎的な走行力や体力養成、スタート時の集中力とスムーズな出発を習得させることが不可欠であり、当社の能動的な取り組みが求められる。加えて、「2歳馬のデビュー率」の向上は、競走馬の活躍機会を確率的に高めるものであり、「強い馬づくり・長く活躍できる馬づくり」という業界・地域が目指す方向性と一致する取り組みである。

また、当社は経営方針(バリュー)にて「タフな競走馬をつくるために、自然や人の技術・経験を尊重」する姿勢を示し、従業員教育の指針ともなっている。具体的な活動として、獣医師と密なコミュニケーションを重ね、不必要な投薬の回避や自然治癒を含む適切な馬のケア実践に努めている。これは、1頭1頭の馬に真摯に向き合う姿勢が前提となるものである。「強い馬づくり・長く活躍できる馬づくり」には、病気やけがの事前予防および事後のケアを含む健康管理も重要であり、KPI ②についても有意義な取り組みと言える。また、近年の医療費高騰を鑑み、水準としても妥当と判断する。

安定した雇用の創出

インパクトの種類	社会面において PI を増大
インパクトトピック	PI：「雇用」
関連する SDGs	
取組内容	① 人事育成、待遇改善、業務効率化、有給取得促進による働きがい向上と働きやすい職場環境整備を通じた安定した雇用の継続
目標と KPI	① 2030 年度までに入社 5 年以内の人材定着率を 68%とする ※実績 ・2025 年度：62.5% ※計算式 $\{1 - (\text{入社 5 年以内の年度内離職者数} / \text{入社 5 年以内の期末従業員数})\} \times 100$

当社は、経営方針（バリュー）にて「従業員の構成は少数を原則とし、一切の階層を実力本位・人格主義の上に置き、個人の能力を最大限に引き出すこと（自立）とチームワークで大きな効果を出すこと（共存）を目指す」を掲げている。これに沿った人材の育成・定着が当社の強みである一貫体制・独自の調教ノウハウを実現することから、人材の定着率を向上させる K P I は有意義である。K P I の実現に向け、各牧場の場長による O J T を中心とした人材育成、業界トップ水準を目指した賃金体系の構築、IoT/ICT の活用による生産性向上、有給休暇の取得率向上をはじめとする福利厚生面の拡充に取り組みを強化してく方針である。

気候変動緩和への貢献

インパクトの種類	環境面において NI を低減
インパクトトピック	NI：「気候の安定性」
関連する SDGs	
取組内容	① エネルギー使用量（ガソリン・灯油・軽油使用量、電気使用量）の管理および削減の推進による気候変動緩和への貢献
目標と KPI	① 2030 年度までにエネルギー使用量を 2024 年度比で平均 2.5%削減する （例：化石燃料 3%、電気 2%） ※実績 2024 年度 化石燃料（ガソリン・灯油・軽油） 146,860 ℓ 電気 442,800kWh

当社は、2025 年度より CO2 排出量（スコープ 1・2）の算定に取り組みを開始している。今後は主に事業活動の各工程での省力化推進を通じてエネルギー使用量の削減を強化し、CO 2 排出を抑制することで気候変動緩和への貢献を目指す方針であり、K P I は有意義である。

#### 4. インパクトのモニタリング

ビッグレッドファームは、代表取締役を最高責任者として主要事業の棚卸を行い、インパクトの特定、取組内容・対応方針や目標・KPIを設定した。

本件で設定した目標・KPIの進捗状況については、当社と北洋銀行営業店及びソリューション部が少なくとも年に1回は定期的に情報共有を行い、北洋銀行がその達成状況や課題をモニタリングするとともに、必要に応じて課題解決に向けた提案を行う。

#### 5. 情報開示

モニタリング関連の情報開示は、北洋銀行および株式会社北海道共創パートナーズが定める「コミュニケーションサポートシート」もしくはその内容に準拠するものを活用し、北洋銀行または株式会社北海道共創パートナーズのホームページにて行うこととする。

以 上

#### 留意事項

1. 本評価書の内容は、北洋銀行ならびに株式会社北海道共創パートナーズが現時点で入手可能な公開情報に加え、ビッグレッドファームから提供された情報や当社への事業に関するヒアリングを通じて収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブ要素の成果及びネガティブ要素の抑制等を保証するものではありません。
2. 本評価を作成するために活用した情報は、北洋銀行ならびに株式会社北海道共創パートナーズがその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。北洋銀行ならびに株式会社北海道共創パートナーズは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証するものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は北洋銀行ならびに株式会社北海道共創パートナーズに帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用(複製、改変、翻案等を含む)は禁止されています。



# セカンドオピニオン

## 北洋銀行 ポジティブインパクトファイナンス 有限会社ビッグレッドファーム

2026年2月27日

サステナブルファイナンス本部  
担当アナリスト：田中 麻実

格付投資情報センター(R&I)は北洋銀行がビッグレッドファームに対して実施するポジティブインパクトファイナンスについて国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)が制定したポジティブインパクト金融原則(PIF 原則)に適合していることを確認した。

R&I は別途、北洋銀行のポジティブインパクトファイナンス実施体制が PIF 原則に適合していることを確認している<sup>1</sup>。今回のファイナンスに関して北洋銀行および北海道共創パートナーズの調査資料の閲覧と担当者への質問を実施し、実施体制の業務プロセスが本件に適用されていることを確認した。

北洋銀行が実施するインパクトファイナンスの概要は以下のとおり。

### (1) 対象先

社名	有限会社ビッグレッドファーム
所在地	北海道新冠郡
設立	1982年11月
資本金	10百万円
事業内容	軽種馬総合牧場 (競走馬の生産、育成、調教、出走管理、繁殖)
売上高	3,273百万円(2025年10月期)
社員数	103名(2025年10月時点)

### (2) インパクトの特定

北洋銀行および北海道共創パートナーズは対象先の事業内容や活動地域等についてヒアリングを行い、バリューチェーンの各段階において発現するインパクトを分析し、特定したインパクトカテゴリを SDGs に対応させてインパクトニーズを確認した。また、当社の事業活動が影響を与える地域におけるインパクトニーズとの整合性について、持続可能な開発ソリューションネットワーク(SDSN)が提供する SDG ダッシュボードなどを参照し確認した。

### (3) インパクトの評価

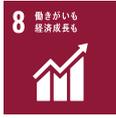
北洋銀行および北海道共創パートナーズは特定したインパクトの実現を測定できるようにインパクトの内容を整理して KPI を設定した。ポジティブインパクトは SDGs 達成に寄与する取り組みとして追加性があると判断した。また、北洋銀行が掲げる重点課題(マテリアリティ)と方向性が一致することを確認した。

<sup>1</sup>2022年9月28日付セカンドオピニオン「北洋銀行 ポジティブインパクトファイナンス実施体制」  
[https://www.r-i.co.jp/news\\_release\\_suf/2022/09/news\\_release\\_suf\\_20220928\\_jpn\\_3.pdf](https://www.r-i.co.jp/news_release_suf/2022/09/news_release_suf_20220928_jpn_3.pdf)

## ① 強い馬・長く活躍できる馬の創出による業界発展と地域経済活性化への貢献

インパクトの種類	経済面・社会面においてポジティブインパクトを増大 社会面においてネガティブインパクトを低減
インパクトエリア	「健康および安全性」「零細・中小企業の繁栄」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<p>① 一貫体制と独自の調教ノウハウによる、強い馬・長く活躍できる馬の創出および日高の基幹産業である畜産業の発展</p> <p>② 馬体特性・成長に合わせた適切な調教、獣医師や調教師との連携強化による適切な治療手段・頻度の選択/馬の健康管理の徹底</p>
目標と KPI	<p>① 2030 年までに自社グループにおける 2 歳馬のデビュー率(2026 年～2028 年産駒の 3 年平均)を 88%にする ※実績 2021 年～2023 年産駒平均:83%</p> <p>② 2030 年度までに自社グループにおける 1 頭当たりの年間医療費(直近 3 年平均)を 33,000 円とする ※実績 ・2022 年度 31,024 円/頭 ・2023 年度 32,468 円/頭 ・2024 年度 33,187 円/頭 ※計算式 (手術等の高額医療費を除く各年度医療費/各年度末管理頭数)/3 年</p>

## ② 安定した雇用の創出

インパクトの種類	社会面においてポジティブインパクトを増大
インパクトエリア	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	① 人事育成、待遇改善、業務効率化、有給取得促進による働きがい向上と働きやすい職場環境整備を通じた安定した雇用の継続
目標と KPI	<p>① 2030 年度までに入社 5 年以内の人材定着率を 68%とする ※実績 2025 年度:62.5% ※計算式 <math>\{1 - (\text{入社 5 年以内の年度内離職者数} / \text{入社 5 年以内の期末従業員数})\} \times 100</math></p>

## ③ 気候変動緩和への貢献

インパクトの種類	環境面においてネガティブインパクトを低減
インパクトエリア	「気候の安定性」
関連する SDGs	
内容・対応方針	① エネルギー使用量(ガソリン・灯油・軽油使用量、電気使用量)の管理および削減の推進による気候変動緩和への貢献
目標と KPI	① 2030 年度までにエネルギー使用量を 2024 年度比で平均 2.5%削減する (例:化石燃料 3%、電気 2%) ※実績 2024 年度 化石燃料(ガソリン・灯油・軽油) 146,860ℓ 電気 442,800kWh

## (4) モニタリング

北洋銀行は対象先の担当者との会合を少なくとも年に 1 回実施し、本 PIF で設定した KPI の進捗状況について共有する。日々の営業活動を通じた情報交換も行い対象先のインパクト実現に向けた支援を実施する。

以上

**【留意事項】**

本資料に関する一切の権利・利益（著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、特段の記載がない限り、R&Iに帰属します。R&Iの事前の書面による承諾無く、本資料の全部又は一部を使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）することは認められません。

R&Iは、本資料及び本資料の作成に際して利用した情報について、その正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

また、本資料に記載された情報の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報の使用に関連して発生する全ての損害、損失又は費用について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負いません。

セカンドオピニオンは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

セカンドオピニオンは、企業等が環境保全及び社会貢献等を目的とする資金調達のために策定するフレームワークについての公的機関又は民間団体等が策定する当該資金調達に関連する原則等との評価時点における適合性に対するR&Iの意見です。R&Iはセカンドオピニオンによって、適合性以外の事柄（債券発行がフレームワークに従っていること、資金調達の目的となるプロジェクトの実施状況等を含みます）について、何ら意見を表明するものではありません。また、セカンドオピニオンは資金調達の目的となるプロジェクトを実施することによる成果等を証明するものではなく、成果等について責任を負うものではありません。セカンドオピニオンは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。セカンドオピニオンは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&Iはセカンドオピニオンを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&Iがセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものであるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、セカンドオピニオン及びこれらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、R&Iがセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報、セカンドオピニオンの意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やセカンドオピニオンの使用に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。セカンドオピニオンに関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&Iに帰属します。R&Iの事前の書面による承諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

セカンドオピニオンは、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。

R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対するR&Iの意見です。R&Iグリーンボンドアセスメントでは、グリーンボンドフレームワークに関してのセカンドオピニオンを付随的に提供する場合があります。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&IはR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものであるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、資料・情報の不足や、その他の状況により、R&Iの判断でR&Iグリーンボンドアセスメントを保留したり、取り下げたりすることがあります。

R&Iは、R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報、R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントその他の意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やR&Iグリーンボンドアセスメントの使用、あるいはR&Iグリーンボンドアセスメントの変更・保留・取り下げ等に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。

**【専門性・第三者性】**

R&Iは2016年にR&Iグリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017年からICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則／ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。また、2022年から経済産業省の温暖化対策促進事業におけるトランジション・ファイナンスの指定外部評価機関に採択されています。

R&Iの評価方法、評価実績等についてはR&Iのウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>）に開示しています。

R&Iは2022年12月、金融庁が公表した「ESG評価・データ提供機関に係る行動規範」（以下、「行動規範」という。）の趣旨に賛同し、これを受け入れる旨を表明しました。行動規範の6つの原則とその実践のための指針へのR&Iの対応状況についてはR&Iのウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/products/esg/index.html>）に開示しています（以下、「対応状況の開示」という。）。

R&Iと資金提供者及び資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。

なお、R&IはESGファイナンスによる資金提供あるいは資金調達を行う金融機関との間で、金融機関の顧客にR&IのESGファイナンス評価を紹介する契約を締結することがありますが、R&Iは、独立性を確保する措置を講じています。詳細は対応状況の開示をご覧ください。